

万5,000円～42万5,000円どころの値頃となり、並青銅鋳物削粉は52万円～52万5,000円どころ。

小口の市中相場(1トン前後)は、ピカ線65万5,000円～67万5,000円、上銅新くず62万円～64万円、普通上銅59万5,000円～61万5,000円、2号銅線58万5,000円～60万5,000円、並銅58万5,000円～60万5,000円、込銅(94～97%)56万円～58万5,000円、込銅(90～93%)53万5,000円～56万円、下銅48万5,000円～53万5,000円、セパ46万円～49

万5,000円、コーペル37万5,000円～42万円、黄銅棒地37万円～41万5,000円、黄銅削粉36万5,000円～41万円、黄銅ラジエター27万6,000円～28万4,000円、交叉ラジエター33万3,000円～34万4,000円、黄銅鋳物38万6,000円～39万3,000円、同山送り22万3,000円～24万4,000円、上青銅鋳物50万8,000円～52万8,000円、並青銅鋳物48万8,000円～50万3,000円、上青銅鋳物削粉50万3,000円～52万3,000円、並青銅鋳物削粉47万8,000円～49万8,000円どころの様子。

米雇用統計控え様子見、LME 銅・NY 銅ともに下落

4日入電のLME銅相場は前日比21ドル安の6,960ドルと続落。米雇用統計控え様子見。

NY銅相場は1.65セント安の320.10セントと続落。米雇用統計控え様子見から下落に。

NYカーブは6,954～6,955ドル、LME先物比は10.50安となった。

錫はドル安を受け後場戻す

LME錫相場は50ドル安の2万2,490ドルと続落。ドル安を受け後場値を戻した。

鉛はドル安で後場小幅高

LME鉛相場は1ドル高の2,041ドルと反発。ドル安で値を戻し後場小幅高となった。

亜鉛はドル安を手掛かりに上昇

LME亜鉛相場は4ドル高の1,859ドルと反発。ドル安を手掛かりに上昇した。

アルミは在庫減、後場小幅高に

LMEアルミ相場は1ドル高の1,695ドルと反発。在庫減もあり後場小幅高となった。LMEアルミ合金は10ドル高の1,750ドル、北米特殊アルミ合金は20ドル高の1,785ドル。

ニッケルはドル安で後場値を戻す

LMEニッケル相場は5ドル安の1万3,380ドルと続落。ドル安で後場値を戻し小幅安に。

KLTM錫は11.7セント続落

採算値は1万1,000円安

KLTM錫は、11.7セント安の72.537Mドルと続落。USDドルは45ドル安の2万2,550ドルで、出来高は60トン。Mドル/USDレート=3.2167とTTSレート103.63円で換算した採算値は1万1,000円安の234万2,000円、諸掛込みの採算値は1万1,000円安の250万2,000円。

橋本健一郎氏のアルミスクラップ11月レポートと12月見通し

■概況：前半は10月の中国鋳工業生産は前年比10.3%増加、予想の10%増を上回り10月の中国小売売上高は前年比13.3%増加。1-10月の中国の不動産投資は前年比19.2%増加、販売額は32.3%増加で不動産投資は継続してとの見解がでるなど好材料があったものの注目の10月のアメリカ雇用統計で非農業部門雇用者数が20.4万人増加と予測の20万人を上回ったことを好感する反面、金融緩和縮小の可能性も高まったことや今月9-12日開催の第18期中央委員会第3総会で習近平指導部が初めて独自政策方針を出したものの期待外れだった失望感から大幅下落。1792ドル(現物後場買い)と前月最終価格から14ドル上昇下落しての前半締めとなった。

後半は1月の独ZEW景気期待指数は54.6に上昇、イランの核開発問題を巡る同国と主要6カ国

の暫定合意を受けて中東情勢の緊張が和らいだこと、ドイツのifo指数が109.3と予測を上回ったことや先週のアメリカ週間失業保険申請件数が良かったことなどプラス材料はあったが日米の株高を受けての過剰流動性資金シフトからアルミは下落。11月30日現在LME(現物後場)1717ドルと前半締めから30ドル下落してのスタートとなった。

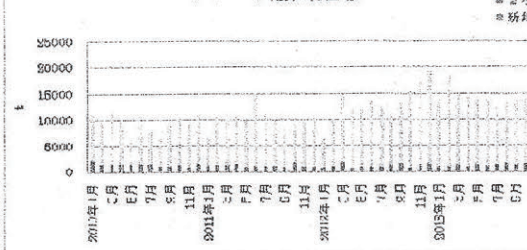
■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比+10.1%の87万1434台であった。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は前年比+13.3%の27万6399台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+7.1%の9万226戸であった。貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出はアルミ新地金が前年比+73.5%の203t、2次合金が+73.5%の1128t、スクラップが-11.5%の1万3002t。

輸入は新地金が前年比+27.1%の15万6840t、2次合金が+21.7%の10万6996t、スクラップが-44.5%の656t、合金スクラップは+28.8%の5009t。前月の国内指標では日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+2.3%の17万7081t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+7%の7万4951tであった。

■見通し:9月は中国第18期中央委員会第3総会で示される習近平指導部の初めて独自政策方針の内容と日米株価の急騰に一喜一憂した月となった。自動車生産は前年比+10.1%の87万1434t。2カ月連続プラス。乗用車+9.6%、トラック+14.9%、バス-2.8%。販売の方は3カ月連続前年超えの前年比+13.3%。乗用車+13.4%、貨物+12.4%、バス+4.9%。新設住宅着工戸数は先月に続き14カ月連続増加の前年比+7.1%(前月比(季節調整済み)+0.7%)の9万226戸。今月も好調であるがややピークを過ぎた感じもあり。持家+17.6%、貸家+3.3%、分譲住宅-17.7%と6カ月ぶりの減少。自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比+7%と4月連続プラス。圧延・押出品生産数は+2.3%の17万7081tで2カ月連続プラス。圧延に関して、缶材は-0.1%で一部製缶メーカーの在庫調整のため。自動車は+7.2%で前年の数字がエコカー補助金制度終了の影響で低かったのに加え消費増税前の駆け込み需要に伴う新車販売台数の好調により2ヶ月連続でプラス(10月の新車販売台数:422千台、対前年同月比:+17.3%)。輸出は6カ月連続マイナスの-17%で中国・東南アジア向けを中心に需要は低調、7ヶ月連続でマイナス(通関統計による9月のタイ向け輸出:3,500t、対前年同月比:-18.0%)。輸出は新地金が前年比+73.5%の203t、2次合金が+73.5%の1128t、スクラップが-11.5%の1万3002tと円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比+27.1%の15万6840t、2次合金は+21.7%の10万6996t、スクラップは-44.5%の656t、合金スクラップは+28.8%の5009tと地金系はやはり円安を背景に大幅輸出増、また輸入も住宅、自動車生産の増加を受けて大幅増。

輸出	8月	9月	10月
新地金	158t	265t	203t
前年比	+9.7%	+14.1%	+73.5%
2次合金	1563t	990t	1128t
前年比	+85.6%	-11.3%	+73.5%
スクラップ	11558t	13303t	13002t
前年比	+14.4%	+12.5%	-11.5%

アルミ輸出推移



アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+7.1%で14カ月連続増加、持家+17.6%、貸家+3.3%と大幅増、ただし分譲住宅-17.7%と6カ月ぶり減少でやや天井の感もあり今後の動向に注意。待望の自動車は生産が2カ月連続上昇の+10.1%、さらに11月の国内販売台数が前年比+13.3%と大幅増。前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加。住宅の動向は要経過観測だが消費税前の駆け込み需要から住宅、自動車需要の2本柱が上昇し今後供給不足が拡大するの可能性がある。

アルミ価格に関しては、今月は日米の経済指標及び金融政策に左右される。新規材料難の中で今年も残りわずかととなり日米株価が堅調に上昇していることからそれらに水を差すようなアメリカの金融緩和縮小開始が年末に行われる可能性が少なくなった。(行われるとすれば債務上限期限の2月7日以降か)両国の経済指標に関してだが株高・円安・消費税前駆け込みなどの好材料から底上げもあり、相対的には堅調な結果が出てくるとの予測。それらを踏まえた価格は11月後半高値付近1800ドルを予測。下値はFRBによる金融緩和縮小開始が起こった場合は11月後半安値の1690ドル割れを予測。スクラップ価格については上記条件によってLME価格先月から100ドル程度下落したものの円安や住宅、自動車販売の堅調や消費税増税前の駆け込み需要からの需給ひっ迫から相殺され0~+5円上昇との予測。為替はアメリカ株の最高値更新に伴う底上げ効果からのドル高円安予測からもう一段円安の101-103円との予測。

	8月	9月	10月
生産台数	88万487台	87万3623台	87万1434台
前年比	-7.6%	+13%	+10.1%
	9月	10月	11月
販売台数	32万4915台	26万4587台	27万6399台
前年比	+12.4	+17%	+13.3%
	8月	9月	10月
新設住宅着工数	8万4343戸	8万8539戸	9万2266戸
前年比	+8.8%	+19.4%	+7.1%
輸入	8月	9月	10月
新地金	14万8001t	11万9996t	15万6840t
前年比	-1.1%	-23%	+27.1%
2次合金	8万7062t	8万4754t	10万6996t
前年比	-11.7%	+11.3%	+21.7%
スクラップ	618t	741t	656t
前年比	-5.6%	+28.6%	-44.5%
合金スクラップ	4299t	3773t	5009t
前年比	+67.5%	+28.1%	+28.8%

アルミ輸入推移

